

◆一般検査



一般検査室では主に尿・便・髄液検査・精液検査を行っています。

尿検査

尿は血液が腎臓で濾過されてできたものなので、血液と同じように有用な情報をたくさん含んでいます。腎臓病の多くは無症状で、そのほとんどが尿検査の異常を伴っているため、早期発見に欠かせないのが尿検査です。

尿定性検査は、試験紙法で PH・比重・蛋白・糖・ケトン体・ビリルビン・ウロビリノーゲン・潜血反応・亜硝酸塩・白血球・アルブミン・クレアチニンの 12 項目を機器を用いて判定しています。依頼に応じて、尿中有形成分分析装置でスクリーニングした後、異常が見られた検体を顕微鏡で鏡検しています。尿中の主な細胞には、血球類（赤血球・白血球）や膀胱・尿路系から剥離された上皮や細菌などが見られます。

その他、妊娠反応もしています。

尿のとり方のポイント（一般的な尿検査の為の採尿方法）

- ・ 最初の尿は採らない（出始めの尿には体の汚れが入るおそれがあります）
- ・ 続けて途中からの尿をコップにとる（体から離してとりましょう）
- ・ 最後の尿はとらない
（最後までしぼり出した尿には、体液が混入するおそれがあります）
（但し、検査の種類により初尿が必要な検査もあります）

便検査

大腸癌で認められる下部消化管出血をみる便潜血反応や寄生虫検査などがあります。

髄液検査

細胞数・細胞腫類等を鏡検します。髄液検査では髄膜炎・脳炎の診断や治療経過、中枢神経系の病態等がわかります。

精液検査

精子濃度・運動率・正常形態率を算定することで精液中の精子の能力がわかります。